

祖父とのコミュニケーション

伊勢原市立中沢中学校

一年 大久保 希実

私の祖父は聴覚障害者です。子供の頃病気で右耳が聞こえなくなりました。聴覚障害とは、音を伝えるための外耳・中耳や、音を感じ取るための内耳などに何かしらの障害があるために、耳が聞こえにくい・聞こえない状態であるといわれています。

祖父は五才の頃高熱が続き、麻疹にかかりました。耳が痛い日が続き近所の内科の医者
に診察してもらいましたが、その後も悪化するばかりで眠れない夜が続きました。祖父の母は弟の出産間近のため出歩くことが困難で祖父は痛みを我慢し続けました。この話を聞き祖父は痛みを堪える強い人だと思いました。

弟が無事に生まれ母と弟と祖父の三人で大分市内にある耳鼻科の病院に行けるようになりしました。けれど当時は終戦直後で切符も配給のため電車に乗るのも大変でした。病院で

診察の結果右耳の中耳炎でその日に緊急手術
を行いました。麻酔の量も少ない時代で痛みに
にたえなから手術をしたことは今でも覚えて
いるそうです。今の時代のようにすぐに専門
の病院で治療できていたら右耳が悪化するこ
とはなかったと思います。祖父が中学生にな
り、右耳はほとんど聞こえていませんでした。
高校の進路を決める時に担任から右耳が聞こ
えないから就職する時に苦勞すると言われま
した。そこで初めて自分は他人から耳が不自
由だと思われていることにショックを受けま
した。そして高校二年生の時に再手術をした
けれど右耳の聴力は戻りませんでした。祖父
は右耳が聞こえないことを受け入れて生活を
していくことを決めました。

私は聴覚障害のある祖父とのコミュニケーション
について工夫していることかあります。
一つ目は、どのようなコミュニケーション方
法が良いかです。右耳が聞こえないので左耳
の聞こえる方で話しかけるようにしています。

ニつ目は、相手にはどのくらいの声でどのくらいのスピードで話しても分かるくらいかです。大きい声でゆっくりと話すように心がけています。三つ目は、聞き取りにくい場合はどのように発信すると良いかです。そのためには、視覚情報を最大限に活用していくことや分かりやすい話し方をすることです。視覚情報を活用する工夫は、顔・口の形や表現、動作を聴覚障害のある方に見えるように面と向かって話す。可能な範囲でジェスチャーを

使って話す。伝わらなかつた場合、筆談や音声確認のツールなどを用いることです。次に分かりやすい話し方を工夫は、ゆっくりはつきりと話す。適宜、文節や句単位で区切って話す。話題を変えるタイミングで認識かあっているかどうか、一緒に確認することなどを心がけています。

今、祖父は七十九才になり、右耳には補聴器をつけています。左耳も慢性中耳炎になつてしまいい左耳も聞こえにくい状態になつてい

ます。祖父は、お風呂や就寝時には補聴器を
取るのでほとんど両耳か聞こえない状態で生
活をしています。障害者手帳三級を持ってい
るので外出する時は車のクラクションか聞こ
えずらかったりして危険な目にあうこともあ
ります。また話しかけられても気がつかずに
相手に嫌な思いをさせてしまうこともあるそ
うです。けれど私の祖父はとても明るくて前
向きな性格です。趣味の畑仕事や釣りや散歩
に行き毎日を楽しんでいます。祖父の育てた
野菜はとても美味しく、力強くたくましい
祖父を私は尊敬しています。祖父だけでなく、
聴覚障害を持つ人と一緒にコミュニケーション
を取る工夫をしながら生活をしたいと思
います。